

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
国 語	現代の国語	1・2年 農業環境科	3単位	新編 現代の国語（数研出版）	常用漢字ダブルクリア （尚文出版）

到達目標	① 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 ② 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばす。 ③ 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いを深める。 ④ 言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
------	--

評価の観点	① 知識・技能	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。
	② 思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」において、自分の考えをまとめ、深めて目的や場面に応じて的確に話したり、聞き取ったりしている。 「書くこと」において、相手や目的に応じて適切に文章を書くことができる。 「読むこと」において、自分の考えを深めたり発展させたりしながら、様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。
	③ 主体的に学習に取り組む態度	積極的に活動に取り組み、国語や言語文化に対する関心を深めている。自分の考えを深めたり発展させたりしながら、進んで表現したり理解したりするとともに伝え合おうとしている。

学習の評価	1 定期考査では①「知識・技能」②「思考・判断・表現」を中心に評価する。 2 予習状況・課題の提出状況・授業中の発問と応答によって③「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 1の評価に2および出席状況を加味し、総合的に評価する。
-------	---

単元	学習内容	学習到達目標
書き手の意図をつかむ	目指す世界の地図を作る	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・「話すこと・聞くこと」において、目的に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、情報を整理して、伝え合う内容を検討している。
日常の中の文章	◆わかりやすく話す ＊スピーチ 写真を文章で説明する	・「書くこと」において、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。
文章の展開を把握する	時間とは何か	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。
日常の中の文章	◆メモをとりながら聞く 広告コピーを書く	・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開を予想しながら聞き、聞き取った情報を整理している。 ・「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。

書き言葉の技術	*文章トレーニング1 文章構造を理解する	・「書くこと」において、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。
対比を読み取る	水の東西	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。
社会の中の文章	文章の構成を工夫して提案する	・「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。
日常の中の文章	表現の工夫を読み取る 〈新聞〉	・「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。
コミュニケーションと言葉	世間話はなぜするか	・「読むこと」において、目的に応じて、文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈するとともに、自分の考えを深めている。
	非言語コミュニケーション	・「話すこと・聞くこと」において、目的に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。
	◆適切な書式で通知する	・「書くこと」において、事柄が的確に伝わるよう、説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。
書き言葉の技術	*文章トレーニング2 要約する	・「書くこと」において、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。
言葉の働きをとらえる	コインは円形か	・「読むこと」において、目的に応じて、文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容を解釈するとともに、自分の考えを深めている。
書き手の考えを比較する	科学と非科学	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。
根拠を読み取る	◆必要な情報を整理して書く	・「書くこと」において、事柄が的確に伝わるよう、説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。
	「わらしべ長者」の経済学	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。
	◆目的に応じて情報を聞き取る	・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開を評価するとともに、情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。
書き言葉の技術	*文章トレーニング3 比較する	・「書くこと」において、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
国 語	言語文化	1・2年 農業環境科	3単位	新編言語文化 (数研出版)	ビジュアルカラー 国語便覧 (大修館書店)

到達目標	① 国語の知識や技能を身に付け、理解を深める。 ② 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばす。 ③ 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いを深める。 ④ 言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
------	---

評価の観点	① 知識・技能	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙等を理解し、知識を身に付けている。
	② 思考・判断・表現	「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。目的に応じて、様々な文章を的確に読み取ることができる。 「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。
	③ 主体的に学習に取り組む態度	積極的に活動に取り組み、国語や言語文化に対する関心を深めている。自分の考えを深めたり発展させたりしながら、進んで表現したり理解したりするとともに伝え合おうとしている。

学習の評価	1 定期考査では①「知識・技能」②「思考・判断・表現」を中心に評価する。 2 予習状況・課題の提出状況・授業中の発問と応答によって③「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 1の評価に2および出席状況を加味し、総合的に評価する。
-------	---

単元	学習内容	学習到達目標
地域の「ことば」	「とんかつ」 5級漢字	・登場人物の行動や言葉から、物語の流れを理解し、心情を読み取ることができる。
古文の世界を楽しむ	「古文に親しもう」 「児のそら寝」 4級漢字	・歴史的仮名遣い、文語と口語の違いを理解する。 ・古文に親しみをもち、話の面白さを理解する。
日本語の中に生きる漢文	訓読のきまり 「格言」	・訓点の意味、書き下し文を理解する。 ・格言のもとになった話を理解する。
受け継がれる古典	「羅生門」 4級漢字	・主人公の心理と行動の変化を正確に読み取り、情景描写に留意しながら文学作品を読むことができる。 ・主人公の心情を場面ごとに考えることができる。

詩歌を味わう	「短歌」「俳句」 「詩歌の魅力」 3級漢字	・朗読により詩のリズムを味わう ・詩の主題を捉え、解釈を深める。 ・韻文の特徴を知り、心地よいリズムを味わうとともに、言葉から情景と心情を読み取る。
現代にも生きる教え	「高名の木登り」 「ある人、弓射ることを習ふに」	・作者の人生観や古典の世界観を味わい、意欲的に読み進めることができる。 ・敬語の種類、副詞の呼応等を理解する。
故事と成語	「助長」 「漁夫の利」 3級漢字	・故事成語のもとになった話を理解する。 ・学習した故事成語と現代の日本語との関わりについて理解を深める。
ことばを吟味する	「舟を編む」	・辞書編纂という仕事の内容を読解することで、日本語の持つ文化的背景について理解を深める。
古文の世界を楽しむ	「検非違使忠明」	・古典特有の表現などについて理解することができる。
故事と成語	「虎の威を借る狐」	・故事成語のもとになった話を理解する。
詩歌を味わう	「六月」「サーカス」 3級漢字	・詩の言葉の持つ美しさや奥深さを、韻とともに味わう。 ・さまざまな表現文化があることを理解する。
語感を磨く	「側転と三夏」	・小説の中にある俳句の特性を理解する。 ・小説と俳句の融合といえる本作品から、言語文化のつながりと流れを感じ取る。
現代にも生きる教え 昔と変わらない人の心	「ある人、弓射ることを習ふに」 「芥川」	・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 ・古典特有の表現などについて理解することができる。
漢詩を味わう	「春暁」「江雪」他 3級漢字	・漢詩の基礎知識を理解する。 ・漢詩の世界を味わう。
記録する文学	「沖縄の手記から」	・異なる立場や考え方を持つ登場人物たちの心の動きを、会話や情景描写から読み取る。 ・戦争小説の読解を通して、平和についての思索を深める。
和歌が作り出す世界	万葉集・古今和歌集 ・新古今和歌集	・短歌や俳句の源流である和歌の世界を味わう。
論語の言葉	論語 準2級漢字	・儒学の祖である孔子の思想を知り、考えることができる。

教科	科目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
地理歴史	地理総合	3年 農業環境科 3年 福祉科	2単位	「わたしたちの地理総合 世界から日本へ」(二宮書店)、「基本地図帳」(二宮書店)	「最新地理図表 G E O」(第一学習社)

到達目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
------	---

評価の観点	知識・技能【A】	思考・判断・表現【B】	主体的に学習に取り組む態度【C】
	知識:地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 技能:地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。

学習の評価	出席状況、定期考査、提出物の内容・提出状況、授業態度などを総合的に評価する。
-------	--

単元	学習内容	到達目標
1章 地図とGISの活用	1節 地理情報と地図 2節 国家の領域と領土問題 3節 国内や国家間の結びつき 4節 日常生活のさまざまな地図	球体としての地球、時差と生活、おもな図法による世界地図、地図の表現を理解する。球面上の正しい方位や時差、図法によって異なる世界地図の特色を理解し、以降の学習の基盤を築くとともに、日常生活で活用する力を身につける。 国家の3要素や国境のなりたち、領域における海洋の役割、日本と周辺諸国との間の領有権問題について理解する。国境や領土問題が国際関係、人々の生活におよぼす影響を考察する。 外国で暮らす日本人を題材として、日本と諸外国との関係を理解する。国家間の結びつきを地域経済圏や国際連合を通して考察する。観光、交通・通信、貿易・物流の視点から、人や物・資本・サービス、情報の国際的な移動のようすを理解する。さまざまな統計地図や統計資料を分析し、表現する地理的技能を養う。
2章 生活文化の多様性と	1節 自然環境と生活文化 2節 産業の発展と生活文化 3節 言語・宗教と生活文化 4節 グローバル化の進展と生活文化	世界的な視野から地球上の起伏の分布がプレートテクトニクスにもとづくプレート境界と関連していることを捉える。また、河川がつくる地形や海岸部の地形、それらの地形を活かした暮らしの特徴を学習し、写真や地形図によって具体的に読み取り、考察する技能を身につける。 世界的な視野から大気が循環する仕組みを捉え、日射のほか地形分布や海流などからも影響を受けて気候の地域性が生まれることを理解する。世界の各気候帯の自然環境の特色、人々の暮らしと工夫について、写真や雨温図、分布図などの資料から考察する。 世界の農業・工業・第3次産業の特徴と生活文化との関連性を捉え、その地理的環境や歴史的背景を理解する。また、アジア各地の事例地域の学習を通して、経済活動の国内・国際的な発展と、グローバル化による生活文化の変容を動的に捉え、主題図や写真などの資料を通して考察する。

国際理解		世界の言語・宗教の特徴と分布，生活文化との関係を考え，その地理的環境や歴史的背景から地域的特色を理解する。また，現代社会における言語・宗教の変容を動態的に捉え，主題図や写真などの資料から考察する。世界の少数民族や少数言語，宗教対立，移民・難民などの現代社会の諸課題を理解し，互いに多様な文化を尊重する多文化共生社会の実現方法について議論し，考察する。 EUの統合による産業や生活文化への影響，そして統合によって生じている経済格差や移民問題などの諸課題を理解し，ヨーロッパ各国の国家としての在り方の変容，EUと日本のつながりについて考察する。 アメリカ合衆国建国時から多様性を育んできた地理的環境・歴史的背景を理解し，グローバル社会で世界をリードする産業の発展と企業の国際化の過程を捉え，アメリカ合衆国の変容，日本とのつながりについて考察する。
3章 地球的課題と国際協力期	1 節 人口・食料問題 2 節 居住・都市問題 3 節 資源・エネルギー問題 4 節 地球環境問題	世界人口の急増によって生じる問題を世界的視野から理解し，人口ピラミッドや主題図などの資料から問題の所在と解決のための取り組みを考察する。また，人口急増国だけでなく人口停滞国の事例を通して，各国の人口政策や諸問題について比較し，理解を深める。持続可能な発展のために，飢餓や飢饉などの食料問題と人口問題を関連させて理解する。その際，モノカルチャー経済や気候変動などの背景的要因も捉えながら，グローバル・ローカルな視点から解決方法を構想する。 都市に人口が集中する要因を主題図や統計資料から読み取るとともに，人口集中によって引き起こされる都市問題についても写真などから判読する。また，途上国と先進国では異なる都市問題が発生していることを理解し，その構造的要因を考察する。都市問題を解決するための都市政策や科学技術の事例に触れながら，解決の方策を構想する。 エネルギー資源の変化を世界的な視野から概観し，主題図や統計資料をもとに資源の偏在性，有限性，そして消費における地域格差などの諸課題を読み取る。エネルギー資源の持続可能な利活用と安定供給を実現するために，化石燃料や再生可能エネルギーのメリットやデメリットを比較し，国際協力の必要性，日本とのつながりについて考察する。 地球温暖化・熱帯林減少・砂漠化など，地球規模でおこっている環境問題の仕組みを構造的に理解する。地球環境を守り持続可能な発展を実現するためには，国際的な協力体制が必要なだけでなく，その背後にある政治・経済的な課題解決も求められることを考察する。また，環境問題と自分自身とのつながりを意識し，SDGsの因果関係も捉えながら具体的な取り組みを構想する。
4章 生活圏の諸課題	1 節 自然環境と防災 2 節 持続可能な地域づくり	日本列島の地形や気候のなりたちと多様性について，主題図やグラフ，写真などの資料から理解する。また，日本列島では自然による恩恵だけでなく，風水害，火山，地震・津波，都市型災害などが発生することを世界的な視野から捉え，その要因と特徴，災害の地域性，防災や減災への取り組みや課題を考察する。新旧地形図やハザードマップなどを活用し，自らの生活圏の防災について考察し，表現する技能を身につける。 生活圏の課題を解決するための手法としての地域調査を実施し，身近な地域の魅力やかかえている課題を見いだし，調査を踏まえてその解決策を考察する。地域調査の一連の手順を理解し，景観観察やアンケート・聞き取り調査など，さまざまな調査方法を活用する。調査結果や統計ツール，新旧地形図やデジタル地図，各種資料などによって得られた情報を多角的な視点から主題図やグラフにまとめ，将来に向けた地域のあり方を構想する。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
地 歴	歴史総合	2 学年 農業環境科・福祉科	2 単位	歴史総合 (実教出版)	ダイアログ歴史総合 (第一学習社)

到達目標	・ 社会的事象の歴史的な見方や考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
------	--

評価の観点	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
	近代化による国際秩序の変化、その後のグローバル化の進展に関する複数の資料を多角的に読み取り、そこから得た情報を適切に取り扱うことができた。	複数の資料を比較したり、関連付けたりして、多面的・多角的に考察し、近代化を読み解く問いを表現できた。	中学校までの学習を踏まえて、見通しをもって学習に取り組もうとし、問いを繰り返し洗練させていくなど、粘り強く取り組むことができた。

学習の評価	①定期考査において、A 知識・技能、B 思考・判断・表現を主に評価する。 ②論述やレポートの作成、小テスト等で A 知識・技能、B 思考・判断・表現を、論述やレポートの作成、課題への取り組み方等で C 主体的に学習に取り組む態度を主に評価する。 ① ②の評価および出席状況を加味し、総合的に評価する。
-------	--

単 元	学習内容	到達目標
歴史の扉	1 歴史と私たち 2 歴史の特質と資料	・身の回りの事象と世界の歴史が結び付いていることを理解できる。 ・身の回りの事象と世界の歴史が結び付きについて考察し、表現できる。 ・絵画や文書資料、統計データなどを事実と解釈とを区別して読み解くことの重要性や、歴史叙述の特性について理解できる。
第1編 近代化と私たち	・近代化への問い 1 章 近代化への胎動 2 章 欧米の市民革命の「西洋の衝撃」	・人々の生活や社会のあり方が近代化にともない変化したことについて考察するための問いを表現できる。 ・18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について、資料を読み取り理解できる。 ・中学校までの学習で得た知識を総合して、資料の地図データを読み解きながら、近代化以前の日本と、アジア、ヨーロッパの結びつきが考察できる。 ・市民革命により近代市民社会の基礎が築かれ、産業革命によって確立した資本主義による欧米社会の変化および国際分業体制の形成を理解できる。

	3章 欧米諸国と日本の国民国家形成 4章 帝国主義の時代 ・近代化と現代的な諸課題	・1848年を境とする国民国家の形成過程を理解したうえで、第2次産業革命を経た欧米諸国の帝国主義政策が、どのように世界を変えたのかを月窮する手がかりが考察できる。 ・「西洋の衝撃」に対して、日本を含めたアジア諸国がどのように対応したのかに着目することで、欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について考察できる。 ・明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について、資料を読み取り、現代社会に与えた影響と課題について理解できる。
第2編 国際秩序の変化や大衆化とわたしたち	・国際秩序の変化や大衆化への問い 5章 第一次世界大戦と大衆社会 6章 経済危機と第二次世界大戦 ・国際秩序の変化や大衆と現代的な諸課題	・人々の生活や社会のあり方が、国際秩序の変化や大衆化にともない変化したことについて考察できる。 ・国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会変化について考察できる。 ・均衡勢力に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が、現代社会に与えた影響と課題について追求できる。 ・第1次世界大戦後、国際協調のためのしくみが形成されたこと、総力戦により大衆が一層台頭するようになり、大衆社会が成立したこと、アメリカを中心に大衆文化が育まれて世界に影響を与えていったことについて理解できる。 ・ファシズム体制の形成から第2次世界大戦の終戦に至るまで、大衆とメディアとの関わりに着目しながら、大衆の戦争協力が現代社会に与えた影響と課題について考察できる。 ・新しい国際秩序である国際連合と現実のアジア・ヨーロッパの冷戦構造のなかから戦後日本の政治の大衆化について理解できる。
第3編 グローバル化と私たち	・グローバル化への問い 7章 冷戦と脱植民地化 8章 多極化する世界 9章 グローバル化と現代世界	・人々の生活や社会のあり方がグローバル化にともない変化したことについて考察できる。 ・冷戦下の世界と日本の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、現代社会に与えた影響と課題について理解できる。 ・冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会に与えた影響と課題について、資料を読み取り理解できる。 ・冷戦の終結とグローバル化の進展が、世界情勢にどのような影響を与えたのか、さらに私たちの生活がどのように変わったかについて考察できる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
公 民	公共	1 学年 農業環境科 福祉科	2 単位	高等学校公共 (帝国書院)	ライブ！公共 2025（帝国書院），高等学校 公共ノート（帝国書院）

到達目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
------	--

評価の観点	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けることができた。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論できる。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについて自覚を深めることができる。

学習の評価	①定期考査において、A 知識・技能、B 思考・判断・表現を主に評価する。 ②論述やレポートの作成、小テスト等で A 知識・技能、B 思考・判断・表現を、論述やレポートの作成、課題への取り組み方等で C 主体的に学習に取り組む態度を主に評価する。 ① ②の評価および出席状況を加味し、総合的に評価する。
-------	--

単 元	学習内容	到 達 目 標
1 部 私たちが つくる社会	1 章 社会の中の私たち	・ 公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様化と共通性などに着目して、社会に参画する自律した主体とは何かを問い、現代社会に生きる人間としての在り方生き方を探究できる。
	2 章 思想から学ぶべきもの	・ 主体的に社会に参画し、他者と協働することに向けて、幸福・正義・公正などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して必要な事項の知識及び技能を身につけることができる。

	3章 私たちの社会の基本原理	・ 自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて、幸福・正義・公正などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通じて、知識や思考力・判断力・表現力等をみにつけることができる。
2部 社会のしくみと諸課題	1章 私たちと法	・ 法の基本的な考え方に関する正確な理解に基づき、身近な主題についてさまざまな考え方を踏まえて判断し、みずからの意見や主張を表現することを通じて、法の意義や司法参加について関心を深めることができる。
	2章 私たちと政治	・ さまざまな意見や利害を調整するという政治の意義や統治機構のしくみの正確な理解に基づき、よりよい社会を構成するための取り組みについて、自分の意見を表現することを通じて、政治参加と公正な世論の形成、地方自治等について理解できる。 ・ 国家主権や国際法によって成立する国際社会の正確な理解に基づき、日本の固有の領土に残る問題の平和的な解決や安全保障、国際連合における国際貢献について、みずからの意見や主張を表現することを通じて、国家主権、領土、日本の安全保障と防衛、国際社会における日本の役割などについて理解できる。
	3章 私たちと経済	・ 希少な資源を効率的に配分する市場メカニズムに対する正確な理解に基づき、公正かつ自由な経済活動が行われる社会を構成するための取り組みについて自分の意見を表現することを通じて、市場経済の機能と限界、金融の動き、財政および租税の役割について理解することができる。 ・ 変化する産業構造と労働のあり方、社会保障の意義と課題に対する正確な理解に基づき、国民福祉の向上に向けた取り組みについて自分の意見を表現することを通じて、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の役割といった諸問題について理解できる。
3部 持続可能な社会の実現について		・ 持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福・正義・公正などに着目して、現代の諸課題を探究できる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
数 学	数 学 I	1 年 農 業 環 境 科	3 単 位	新編数学 I (実教出版)	ステージノート 数学 I (実教出版)

到達目標	数と式、方程式と不等式、2次関数、図形と計量及びデータの分析について理解させ、基礎的・基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。
------	---

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	基本的な概念や法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができたか。	問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けることができたか。	数学のよさを認識し数学を活用しようとした数、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする取り組みができたか。

学習の評価	1 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、数学的な考え方、数学的な技能をみるための問題も出題する。 2 学習態度等の平常点 (1) 授業時などの学習過程で、評価の観点の4項目について、良い点および伸長の状況などを評価する。 (2) 演習ノートやレポートの提出状況・課題テスト・小テストの成績などを評価する。
-------	---

単元	学習内容	到達目標
第1章 数と式	1 節 式の計算 1 整式とその加減・減法 2 整式の乗法 3 因数分解 2 節 実数 1 実数 2 根号を含む式の計算 3 節 1次不等式 1 不等号と不等式 2 不等式の性質 3 1次不等式	数を実数まで拡張することの意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解して、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式及び2次方程式についての理解を深め、それらを活用できるようにする。 (1) 整式 式の展開と因数分解について、目的に応じて式を変形し、見通しをもって式を扱うことができるようにする。 (2) 実数 中学校までに扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系についての理解を深める。また、絶対値や根号を含む式の計算ができるようにする。 (3) 方程式と不等式 不等式の基本性質と1次不等式の解法について学び、不等式の解の意味について理解する。 2次方程式の解の公式を導き、実数解を持つ2次方程式を解けるようにする。 さらに、判別式や様々な2次方程式の取り扱いについて学び、計算ができるようにする。
第2章 集合と論証	1 節 集合と論証 1 集合 2 命題と条件 3 逆・裏・対偶	(1) 集合と命題 ベン図や表を用いて、集合の包含関係や要素の個数など集合に関する基本的な事項を学ぶ。命題、必要条件、十分条件および逆・裏・対偶などは、定義をしっかりと理解させ、できるだけ集合で使うベン図や図表を用いて考える習慣をつけさせ、論理的な思考力を伸ばす。 また、ここでは、対偶を利用した証明や背理法による証明についても扱う。
第3章 2次関数	1 節 2次関数とそのグラフ 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 3 2次関数の最大・最小	2次関数について理解し、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに、それを具体的な事象の考察や2次不等式を解くことなどに活用できるようにする。

第 4 章 図形と計量	4 2 次関数の決定 2 節 2 次方程式と 2 次不等式 1 2 次関数のグラフと 2 次方程式 2 2 次関数のグラフと 2 次不等式	(1) 関数とグラフ いろいろな関数を取り上げ、関数概念の理解を深める。 (2) 2 次関数の最大・最小 2 次関数の値の変化を考察することを通して、関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。 (3) 2 次関数と方程式・不等式 2 次関数のグラフと x 軸との共有点を考え、2 次関数と 2 次方程式の関係について理解する。また、グラフと x 軸との位置関係から、2 次関数のグラフと 2 次不等式の関係について理解する。 鋭角の三角比の意味や相互関係、それらを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解する。さらに、角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。
	1 節 三角比 1 三角比 2 三角比の性質 3 三角比の拡張 2 節 三角比と図形の計量 1 正弦定理 2 余弦定理 3 三角形の面積 4 空間図形の計量	(1) 鋭角の三角比 正弦・余弦・正接を直角三角形における辺の比と角の大きさとの間の関係として導入し、その意味を理解する。 (2) 鈍角の三角比 角を鈍角や、0°，90°，180° の場合まで拡張し、正弦・余弦・正接の意義を理解できるようにする。また、それらの相互関係について学習し、計算ができるようにする。 (3) 正弦定理と余弦定理 三角形のそれぞれの辺と角との間に成り立つ基本的な関係を理解し、式の取り扱いができるようにする。 (4) 図形の計量 正弦定理や余弦定理などの活用場面として、平面図形や簡単な空間図形の計量を扱い、いろいろな図形の辺の長さ、面積・体積などが求められるようにする。
第 5 章 データの分析	1 節 データの分析 1 データの整理 2 代表値 3 四分位数と四分位範囲 4 分散と標準偏差 5 相関係数	データを整理し、数学的に考察し説明できるようにする。単に統計量を求めるだけではなく、意味を理解させるとともにそれらを利用して、データの傾向を的確にとらえ説明できるようにする。 (1) データの散らばり ここでは、中学校での学習をさらに発展させて四分位数、四分位範囲、分散及び標準偏差などの用語を知り、意味を理解させるとともに、それらを利用してデータの傾向を的確にとらえ説明できるようにする。 場合によっては、表計算ソフトやグラフ電卓を用いて分散や標準偏差の計算を行う。 (2) データの相関 ここでは、2 つの変量の間にはどのような関連があるかを考える。1 つの変量がもう 1 つの変量に強い関連がある場合と、ない場合がある。相関係数を用いて、その度合を計算する。 また、相関係数と散布図の関連を考察し、変量 X と Y の間の相関関係を調べる。
課題学習		実社会で活用できる題材や生徒が興味深いと感じられるテーマについて学習し、数学の有用性と奥深さを感じさせる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
理 科	科学と人間生活	1年農業環境科	3 単位	科学と人間生活 (実教出版)	アクセスノート 科学と人間生活 エブリィノート 科学と人間生活 (実教出版)
		1年福祉科	2 単位		

到達目標	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な物事・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。
------	--

評価の 観点	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
	科学技術の発展と現代社会での科学技術の役割についてわかる。	昔と比較して豊かな生活を送ることができるようになったことに対する、科学技術の役割について考えることができる。 観察や実験などを通して、結果をレポートし、考察することができる。	現代社会において・科学技術の発展が生活を豊かで便利にしてきた様子と、その役割を調べようとする。

学習の 評価	- 定期考査において、A 知識・技能及びB 思考・判断・表現を評価する。 - 課題の提出状況や実験・実験レポート等でC 主体的に学習に取り組む態度を評価する。
-----------	--

単元	学習内容	到達目標
第 1 章 科学と技術 の発展	1 節 科学技術の始まり 2 節 海 3 節 土	人間は技術をもつことが特徴の生き物であることを理解する。 自然を理解することで科学と技術が発展していることを学習する。
第 2 章 物質の科学	1 節 材料とその再利用	プラスチック、金属、セラミックスがそれぞれの材料の特徴を生かして、身の回りの様々なところに利用されていることを学び、物質の種類、性質および用途や、資源の再利用について理解する。
第 3 章 生命の科学	2 節 微生物とその利用	様々な微生物の存在、生態系における微生物のはたらき、微生物と人間生活について学び、微生物が生態系や人間生活とどのようにかかわっているかについて理解する。
第 4 章 光や熱の科学	1 節 熱の性質とその利用	熱の性質とその利用、エネルギーについて学びエネルギーの移り変わりなどについて理解する。
第 5 章 宇宙や地球 の科学	1 節 太陽と地球	身近な天体の姿や運行について学び、天体やその運行と人間生活との関係について理解する。
第 6 章 これからの 科学と人間 生活		科学と科学技術の現状から、今後の科学について考える。

教 科	科 目	対象学年学科(類型)	単位数	教科書	使用教材
理 科	物 理 基 礎	2 年 農 業 環 境 科 (土 木)	3 単 位	新編 物理基礎 (東 京 書 籍)	ニューサポート 新編 物理基礎 (東 京 書 籍)

到達目標	① 物理的な事物・現象についての観察，実験などを行い，自然に対する関心や探究心を高める。 ② 物理的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ，科学的な自然観を育成する。
------	--

評価の観点	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
	日常生活や社会との関連を図りながら，自然現象とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	自然現象とその変化から問題を見だし，見通しをもって観察，実験などを行い，得られた結果を分析して解釈し，表現するなど，科学的に探究している。	自然の事物とその変化に主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。

学習の評価	・授業に対する姿勢・学習態度、授業内容を適切にノートまとめているかなどで評価する。 ・観察・実験などを行い、レポートを書かせ、観察・実験に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、レポートなどから評価する。 ・定期考査・課題の提出状況・出席状況から評価する。
-------	--

単元	学習内容	到達目標
第1編 物体の運動とエネルギー	1 章 直線運動の世界	・物体の運動を測定し，その運動を変位－時間のグラフや，速度－時間のグラフで表すことなどを通して，変位や速度や加速度など物体の運動の基本的な表し方について理解する。
	2 章 力と運動の法則	・物体にはたらく様々な力を見抜いてベクトルで表す方法を身につけるとともに，それらの力がつり合う条件を見いだせるようになる。 ・直線運動を中心に作用・反作用の法則，慣性の法則，運動の第2法則について理解する。
	3 章 仕事とエネルギー	・仕事をする能力としての運動エネルギーと位置エネルギーの表し方を理解し、力学的エネルギー保存の法則を用いていろいろな運動を分析できるようになる。
第2編 さまざまな物理現象とエネルギー	1 章 熱	・絶対温度について学び、原子や分子の熱運動と温度との関係を定性的に理解する ・熱量，熱容量，比熱，及び熱量の保存について理解し，熱を定量的に扱えるようになる。 ・仕事と熱の変換，内部エネルギー，及び熱力学第1法則について学び，熱現象とエネルギーの関係について理解する。
	2 章 波	・波の基本的な性質を理解する。 ・横波と縦波の違いを理解する。また，波の速さ，波長，周期や振動数を定量的に扱えるようになる ・波の独立性，重ね合わせの原理，反射について観察や作図を通して学び，定常波ができるしくみについて理解する。 ・音波の性質として，うなり，固有振動，共振（共鳴）などを学び，身近な楽器の原理について理解する。
	3 章 電気	・静電気や電流について電子の移動と関連付けて理解するとともに，電荷や電流の大きさを定量的に扱えるようになる。 ・電流が磁場から受ける力について学び，モーターの原理を理解する。さらに，モーターと発電機についてエネルギー変換の立場から理解する。
	4 章 エネルギー	・人類が利用可能な様々なエネルギーの特性や利用について，物理学的な視点から理解する。 ・放射線の種類と特性，医療や農業などでの利用，及び人体や環境への影響について理解する。 ・原子力発電における放射線及び原子力の利用とそれに伴うリスクについて，具体的な事例に触れながら理解を深める。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
理 科	化学基礎	2学年 農業環境科 野菜類型 草花類型	3単位	化学基礎 (実教出版)	基本 新ステップノート 化学基礎 カラー版 (浜島書店)

到達目標	①日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ②観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ③物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
------	--

評価の観点	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

学習の評価	・定期考査 ・レポート ・授業時の小テスト ・自己の学習状況の把握、振り返りの様子 などを、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点別に評価する。
-------	--

単 元	学習内容	到達目標
序 物質と化学		・身のまわりの物や製品について、それらはどんな物質でできているという視点で考えることができる。 ・生活の中には多くの物質があり、化学変化を利用していることを理解できる。
1章 物質の構成	1節 物質の探究 1 物質の分類と性質 2 物質と元素 3 物質の三態と熱運動 2節 物質の構成粒子 1 原子の構造 2 イオンの生成 3 元素の周期表	・物質は純物質と混合物とに分類できることを理解できる。 ・物質の分離・精製の方法を理解できる。 ・物質は種々の元素から成り立っていること、元素は元素記号で表すこと、単体や化合物および同素体の存在及び成分元素の検出方法を理解できる。 ・物質には固体・液体・気体の3つの状態があり、それは熱運動が原因であることを理解できる。またそれに合わせ絶対温度の定義を理解できる。 ・原子の構造、同位体の存在を理解できる。 ・原子の電子配置と価電子の意味および化学結合の基礎となる希ガスの電子配置も理解応用できる。 ・イオンの電子配置と希ガス型の構造の関係を理解するとともに、イオンからなる物質の構造と化学式の表し方を理解できる。 ・周期律と、それを一覧にした周期表の特徴を理解できる。特に価電子の数やイオン化エネルギーの周期的変化に注目する。周期表上での元素の分類や同族元素の名称、元素の陽性や陰性の傾向を理解できる。
2章 物質と化学結合	1節 イオン結合 1 イオン結合とイオン結晶 2 イオン結合からなる物質	・イオン結合のしくみ、組成式を理解できる。 ・イオンからなる物質の特徴的な性質・利用法などを理解できる。

	2節 共有結合と分子間力 1 共有結合と分子 2 分子間力と分子結晶 3 共有結合からなる物質 3節 金属結合 1 金属結合と金属結晶 2 金属 4節 化学結合と物質 1 結晶の分類 2 化学結合と身のまわりの物質	・共有結合のしくみ、分子式、電子式や構造式を理解できる。また配位結合と錯イオンについても理解できる。 ・分子は原子が電子を引きつける強さの差により電氣的に正の部分と負の部分が(極性)できること、分子の形によって分子全体として極性が打ち消される分子と打ち消されない分子が存在することを理解できる。 ・物質は有機化合物と無機物質に分類できること、およびその利用法などを理解できる。 ・分子結晶と共有結合の結晶について、性質が大きく異なることを理解できる。 ・金属の原子どうしの結合、それに伴う金属の性質が理解できる。 ・金属が身のまわりでどのように利用されているかを理解できる。 ・粒子間にはたらく力、粒子の結合の種類を理解し、構成される結晶の分類ができ、その性質も理解できる。 ・それぞれの化学結合によってできる物質について、身のまわりでの用途を理解できる。
3章 物質の変化 終 科学技術と 化学	1節 物質と化学反応式 1 原子量と分子量・式量 2 物質質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式 2節 酸と塩基 1 酸と塩基 2 酸と塩基の分類 3 水素イオン濃度と pH 4 中和反応と塩 3節 酸化還元反応 1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元 4 酸化還元反応の応用	・原子量によって異なる原子の質量が比較しやすくなることを理解できる。それをもとに、分子量や式量の定義を理解できる。 ・ある一定の量を考えて、それを単位として扱う物質質量の概念を理解できる。演習などを通して数値的な扱い方を体得する。また、気体については物質質量と体積も重要な関係があるので、それもあわせて理解できる。 ・溶液の濃度について、パーセント濃度やモル濃度の定義を理解できる。 ・化学変化を化学反応式やイオン反応式で表すことができる。 ・化学変化の量的関係を理解できる。 ・酸・塩基について、アレニウスの定義とブレンステッドの定義を学び、酸・塩基の反応を理解できる。 ・酸や塩基の価数、電離度による強弱を理解できる。 ・水は一部が電離していること、水溶液の酸性や塩基性の程度を pH により表すことができることを理解できる。 ・塩の定義と分類の方法、塩の水溶液の性質を理解できる。 ・酸化や還元の定義を、酸素、水素、電子のやりとりから理解できる。 ・原子の酸化数が求められ、その増減から酸化と還元を理解できる。 ・酸化剤と還元剤について理解ができる。 ・半反応式を用いて、酸化還元反応のイオン反応式や化学反応式をつくることができる。 ・金属のイオン化傾向を理解し、金属の反応をイオン化傾向と関連させて理解できる。 ・電池の一般的な原理を酸化還元と関連させて説明することができ、正極、負極、起電力の意味が理解できる。 ・一次電池、二次電池とは何かを、具体例とともに理解できる。 ・電気分解による物質の製造を理解できる。 ・科学技術の歴史と、日常生活に利用されている科学技術のどんなことに化学が利用されているかを理解できる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
理 科	生物基礎	3学年 農業環境科 (草花・野菜類系)	2単位	高校生物基礎 (実教出版)	エブリノート (実教出版) 新課程版 ネオパルノート 生物基礎 (第一学習社)

到達目標	1 現代生物学の基礎となる代謝、遺伝子、恒常性、免疫、生態系といった基礎的な内容を、最先端の生物学を織り交ぜながら学習する。 2 生物の多様性の中から法則を導き、その中の法則に基づきながら共通性を見いだしていく。 3 観察・実験を通して自然を科学的に探求する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。 4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。
------	---

評価の観点	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
	・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	・生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集過程の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。	・生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。

学習の評価	①定期考査において、A 知識・技能、B 思考・判断・表現を主に評価する。 ②論述やレポートの作成、小テスト等で A 知識・技能、B 思考・判断・表現を、論述やレポートの作成、課題への取り組み方等で C 主体的に学習に取り組む態度を主に評価する。 ①②の評価および出席状況を加味し、総合的に評価する。
-------	--

単 元	学習内容	到達目標
第 1 章 生物の特徴	1節 生物の多様性と共通性 1. 生物の多様性・共通性 2. 生物の共通性と進化 3. 細胞 【実験】 ①顕微鏡の基本操作 ②真核細胞と原核細胞の観察 ③酵素の性質	・生物の共通性と多様性について、すべての生物で細胞が共通の構造であることを理解している。 ・細胞における DNA のはたらきについて理解し、説明することができる。 ・生物の共通性を、実験や観察を通して見出し、理解しようとする。
	2節 生物とエネルギー 1. 代謝とエネルギー 2. 酵素と代謝 3. 光合成 4. 呼吸 5. エネルギーの流れ	・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解している。 ・カタラーゼを用いた実験から、酵素の作用と作用する物質の関係について結果を導き出すことができる。

第2章 遺 伝 子 と そ の 働 き	1節 遺伝情報と DNA 1. 遺伝子の本体 2. DNA の複製と分配 【実験】 ④DNAの抽出 ⑤細胞周期の観察 ⑥だ腺染色体の観察	・ゲノム、遺伝子、染色体、DNA の関係を理解している。 ・DNA の複製を塩基配列と関連付けて説明することができる。 ・細胞分裂の際に、DNA の塩基配列が正確に複製されるしくみを見出し、理解しようとする。
	2節 遺伝情報とタンパク質の合成 1. 遺伝子とタンパク質 2. タンパク質の合成 3. 遺伝子の発現 4. ゲノムと遺伝子	・DNA の塩基配列に基づいて、タンパク質が合成されることを理解している。 ・遺伝子の発現について理解し、細胞ごとに特定の遺伝子が発現することを理解している。
第3章 ヒトの体の調 節	1節 体内環境 1. 体内環境と恒常性 2. 体液とその働き 3. 体液の調節	・体内環境が一定の範囲に保たれることとその意味を理解している。 ・肝臓や腎臓の機能を理解し、人体についての理解を深めようとする。
	2節 体内環境の維持の仕組み 1. 情報の伝達 2. 自律神経系による情報伝達 3. 内分泌系による調節 4. 内分泌系と自律神経系による調節	・神経やホルモンの働きにより体内環境が維持されることを理解している。 ・観察、実験に基づいて、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見出し、理解しようとする。
	3節 免疫 1. 生体防御と免疫 2. 自然免疫のしくみ 3. 獲得免疫のしくみ 4. 免疫と疾患	・病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解している。 ・免疫の医療への応用やヒトの免疫疾患について理解している。 ・免疫について、身近な現象と絡めて理解しようとする。
第4章 生物 の 多 様 性 と 生 態 系	1節 生態系とその成り立ち 1. 生態系 2. 植生とその変化 3. 遷移のしくみ	・陸上には、森林・草原・砂漠などの多くの植生がみられ、植物を取り巻く環境や構成種により植生が変わっていくことを理解している。 ・資料に基づいて、繊維の要因を見出して理解することができる。
	2節 植生とバイオーム 1. 世界のバイオームとその分布 2. 日本のバイオーム	・地球上には、気温や降水量ごとにさまざまなバイオームが成立していることを理解している。
	3節 生態系と生物の多様性 1. 生物の多様性 2. 生物どうしのつながり	・生態系内における種多様性、生物どうしのかかわりあいについて理解している。
	4節 生態系のバランスと保全 1. 生態系のバランス 2. 人間生活による環境への影響 3. 生態系の保全の重要性	・生態系のバランスや、生態系の保全の重要性について理解している。 ・人間活動による生態系への影響を理解し、保全のために何をしなければならないかを考える。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教 科 書	使 用 教 材
保健体育	体 育	1 年普 通 科 1 年国 際 科 1 年農業環境科 1 年福 祉 科	3 単位	現代高等保健体育 (大修館書店)	

到達目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
------	---

	①知識及び技能	②思考・判断・表現等	③学びに向かう力、人間性等
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。

学習の評価	①知識及び技能を実技テストで、②思考・判断・表現力等、③学びに向かう力、人間性等を加味し総合的に評価する。
-------	---

単 元	学 習 内 容	到 達 目 標
体育理論	・オリエンテーション ・集団行動 ・スポーツの歴史	・体育のねらいを理解する。 ・整然と集団行動ができる。 ・スポーツの歴史、文化的特性や現代スポーツの特徴を理解する。
体づくり 運動	・体ほぐしの運動 ・実生活に生かす運動の計画 ・徒手体操 ・新体力テスト(スポーツテスト)	・自分の体に関心を持ち、体ほぐしをしたり、体力を高めたりする。また、互いに協力して様々な運動を実践する。 ・徒手体操を集団で正確に雄大に実施する。 ・スポーツテストを行い自己の能力を知り、さらに能力を高めるよう工夫する。
球 技	・サッカー ・バレーボール ・ソフトボール ・バスケットボール	・自己の能力やチームの課題に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。 ・チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになる。 ・勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また、健康・安全に留意して活動ができるようになる。
選択 武 道・ ダンス	・柔道 ・剣道 ・創作ダンス	・自己の能力に応じて運動の技能を高め、相手の動きに応じた攻防を展開して練習や試合ができるようになる。 ・伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、公正な態度と安全に留意して練習や試合ができるようになる。 ・グループの課題や自己の能力に応じた課題を解決し、計画的な練習の仕方や発表の仕方を工夫することができるようになる。 ・感情を込めたり楽しく踊ったりし、互いの良さを認め合い、協力して練習や交流・発表ができるようになる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教 科 書	使 用 教 材
保健体育	体 育	2年普通科 2年国際科 2年農業環境科 2年福祉科	2単位 2単位 3単位 2単位	現代高等保健体育 (大修館書店)	

到達目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
------	---

	①知識及び技能	②思考・判断・表現等	③学びに向かう力、人間性等
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。

学習の評価	①知識及び技能を実技テストで、②思考・判断・表現力等、③学びに向かう力、人間性等を加味し総合的に評価する。
-------	---

単 元	学 習 内 容	到 達 目 標
体育理論	・オリエンテーション ・集団行動 ・スポーツの歴史	・体育のねらいを理解する。 ・整然と集団行動ができる。 ・スポーツの歴史、文化的特性や現代スポーツの特徴を理解する。
体づくり運動	・体ほぐし運動 ・実生活に生かす運動の計画 ・新体力テスト(スポーツテスト)	・自分の体に関心を持ち、体ほぐしをしたり、体力を高めたりする。また、互いに協力して様々な運動を実践する。 ・スポーツテストを行い自己の能力を知り、さらに能力を高めるよう工夫する。
球 技	・ソフトボール ・サッカー ・バレーボール ・バドミントン ・バスケットボール ・卓球	・自己の能力やチームの課題に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。 ・チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになる。 ・勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また、健康・安全に留意して活動ができるようになる。
選択 武 道・ ダンス	・柔道 ・剣道 ・創作ダンス	・自己の能力に応じて運動の技能を高め、相手の動きに応じた攻防を展開して練習や試合ができるようになる。 ・伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、公正な態度と安全に留意して練習や試合ができるようになる。 ・グループの課題や自己の能力に応じた課題を解決し、計画的な練習の仕方や発表の仕方を工夫することができるようになる。 ・感情を込めたり楽しく踊ったりし、互いの良さを認め合い、協力して練習や交流・発表ができるようになる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教 科 書	使 用 教 材
保健体育	体 育	3年普通科 3年国際科 3年農業環境科 3年福祉科	3単位 2単位 3単位 2単位	現代高等保健体育 (大修館書店)	

到達目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。
------	--

	② 知識及び技能	②思考・判断・表現等	③学びに向かう力、人間性等
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

学習の評価	学習状況での ①知識及び技能を実技テストで、②思考・判断・表現等、③学びに向かう力、人間性等を加味し総合的に評価する。
-------	---

単 元	学 習 内 容	到 達 目 標
体育理論 体づくり 運動 ダンス 選択 A 球技・ ダンス 選択 B 球技 選択 C 球技	・オリエンテーション ・集団行動 ・体ほぐしの運動 ・実生活に生かす運動の計画 ・新体力テスト(スポーツテスト) ・フォークダンス ・リズムダンス ・ソフトボール ・テニス ・サッカー ・バドミントン ・ダンス ・卓球 ・ビーチボール ・バスケットボール ・バレーボール ・バドミントン ・卓球 ・バスケットボール ・卓球 ・バドミントン	・体育のねらいを理解する。 ・整然と集団行動ができる。 ・ライフスタイルに応じたスポーツとのかかわり方を理解する。 ・自分の体に関心を持ち、体ほぐしをしたり、体力を高めたりする。また、互いに協力して様々な運動を実践する。 ・スポーツテストを行い自己の能力を知り、さらに能力を高められるように工夫する。 ・伝統的なダンスを習得する。 ・体育大会用のダンスを創作し、表現と発表の資質を養う。 ・意欲的な態度で種目決定が行える。 ・班や個人の技量に応じた目標を立て、工夫した活動計画の立案ができる。 ・班毎に協力しながら活動し、技能をたかめることができる。 ・競技の特性を理解し、安全に留意し活動ができる。また、競技方法やルールを理解し、ゲームができる。 ※ 選択 A と同様 ※ 選択 A と同様

教科	科 目	対象学年学科	単位数	教 科 書	使 用 教 材
保健体育	保 健	1年普通科 1年国際科 1年農業環境科 1年福祉科	1単位	現代高等保健体育 (大修館書店)	現代高等保健ノート (大修館書店)

到達目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。
------	---

	①知識及び技能	②思考・判断・表現等	③学びに向かう力、人間性等
評価の観点	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

学習の評価	定期考査で①知識及び技能や②思考・判断・表現について、学習状況で①②③を加味し総合的に評価する。
-------	--

単 元	学 習 内 容	到 達 目 標
現代社会と健康	- 健康の考え方と成り立ち - 私たちの健康のすがた - 生活習慣病の予防と回復 - がんの原因と予防 - がんの治療と回復 - 運動と健康 - 食事と健康 - 休養・睡眠と健康 - 喫煙と健康 - 飲酒と健康 - 薬物乱用と健康 - 精神疾患の特徴 - 精神疾患の予防 - 精神疾患からの回復 - 現代の感染症 - 感染症の予防 - 性感染症・エイズとその予防 - 健康に関する意思決定・行動選択 - 健康に関する環境づくり	- 国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきており、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていることを理解する。 - 健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わっていることを考察する。 - 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられることやその予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解する。 - 健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解する。 - 喫煙と飲酒は、生活習慣病の要因になることや薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないことを理解する。また、それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを考察する。 - 精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であることを理解する。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを考察する。
安全な社会生活	- 交通事故の現状と発生要因 - 安全な社会の形成 - 交通における安全 - 応急手当の意義とその基本 - 日常的な応急手当 - 心肺蘇生法	- 安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることを理解する。 - 交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わっていることを理解する。また、交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを十分に理解する。 - 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できることや応急手当には、正しい手順や方法があることを理解する。 - 応急手当は、障害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解する。また、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うことができる。

教科	科目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
保健体育	保健	2年普通科 2年国際科 2年農業環境科 2年福祉科	1単位	現代高等保健体育 (大修館書店)	現代高等保健ノート (大修館書店)

到達目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。
------	--

	①知識及び技能	②思考・判断・表現等	③学びに向かう力、人間性等
評価の観点	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

学習の評価	・定期考査で①及び②について、学習状況で①、②、③を加味し総合的に評価する。
-------	--

単元	学習内容	到達目標
生涯を通じる健康	ライフステージと健康 思春期と健康 性意識と性行動の選択 妊娠・出産と健康 避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康 中高年期と健康 働くことと健康 労働災害と健康 健康的な職業生活	・ライフステージと健康の関連について説明できる。 ・思春期における体の変化を、女性と男性に分けて説明できる。 ・性意識の男女差について例をあげて説明できる。 ・妊娠・出産の過程における健康課題について説明できる。 ・家族計画の意義と適切な避妊法について説明できる。 ・心身の発達と結婚生活の関係について説明できる。 ・加齢にともなう心身の変化について例をあげて説明できる。 ・働くことの意義と健康とのかかわりについて説明できる。 ・労働災害の種類とその原因について例をあげて説明できる。 ・余暇を積極的にとることの意義について説明できる。
社会生活と健康	大気汚染と健康 水質汚濁、土壌汚染と健康 環境と健康にかかわる対策 ごみの処理と上下水道の整備 食品の安全性 食品衛生にかかわる活動 保健サービスとその活用 医療サービスとその活用 医療品の制度とその活用 さまざまな保健活動や社会的対策 健康に関する環境づくりと社会参加	・大気汚染の原因と健康への影響について例をあげて説明できる。 ・水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を説明できる。 ・産業廃棄物の処理について説明できる。 ・ごみの処理の現状やその課題について説明できる。 ・食品の安全性と健康とのかかわりについて説明できる。 ・食品の安全性を確保するための個人の役割について説明できる。 ・保健行政の役割について例をあげて説明できる。 ・さまざまな医療機関の役割について説明できる。 ・医薬品の正しい使用法について説明できる。 ・国際機関・民間機関などの保健活動について例をあげて説明できる。 ・環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを説明できる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
芸術	音楽Ⅰ	1年 普通科 1年 国際科 1年 農業環境科 1年 福祉科	2 単位	ON! 1 (音楽之友社)	Music Note (啓隆社)

到達目標	・歌唱・器楽・鑑賞などの幅広い活動を通して、音楽を愛好する心を身に付けるとともに、感性を豊かにし、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・互いの個性を理解し、認め合うことで、より幅の広い視野や価値観を身につける
------	---

評価の観点	知識・技術	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について、理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
	思考・判断表現	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図を持ったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

学習の評価	①筆記テスト、実技テストによる評価 ②プリントや感想等の提出内容による評価 ③授業時の取り組み、様子、出席状況による評価 ★①～③を総合的に評価する。
-------	--

単元	学習内容	学習到達目標
	「オリエンテーション」 ・音楽Ⅰの授業の進め方について	・授業の進め方を理解することができる。
歌唱	「歌を歌おう」 「様々な言語で歌おうⅠ」 「様々な言語で歌おうⅡ」	・楽曲の良さを感じ取り、無理のない発声で、歌うことができる。 ・イタリア語の歌曲に触れ、のびやかな発声を身につけることができる。 ・英語の楽曲の良さを感じ取り、発音に気をつけて、無理のない発声で、のびやかに歌うことができる。 ・ドイツ語の発音に慣れ、発音に気をつけて、のびやかにドイツ歌曲を原語で歌うことができる。

楽典 器楽 創作	「楽譜の読み方」 「リズムうち」 「和音」 「伴奏付け」 「創作」	・基礎的な楽譜の読み方を身につけることができる。 ・習得した知識を元に、簡単なリズム打ちができる。 ・和音について、基礎的な内容を理解できる ・和音について理解した知識を元に簡単な旋律の伴奏付けをすることができる。 ・これまで習得した知識を元に、簡単な旋律の作曲をすることができる。 ・自作の曲に、和音付けをすることができる。
器楽	「箏に親しもうも う」	・箏の基礎的な奏法を理解できる。 ・平易な曲を練習し、演奏することができる。
鑑賞 音楽 史	「いろいろな曲を鑑 賞しよう」 「西洋音楽史、日本 音楽史」 「近代～現代音楽」	・様々な曲に興味を持って、その曲の良さを感じ取り主体的に鑑賞することができる。 ・鑑賞をとおして、それぞれの時代の音楽的な特徴や歴史的背景を理解することができる。 ・様々な時代の音楽史について知り、その特徴を理解することができる。
歌唱 器楽 鑑賞	「ミニコンサート」	・個人またはグループで、演奏する曲を決め、主体的に友達と協力しながら、練習に取り組むことができる。 ・人前で発表することを意識し、表現を工夫することができる。 ・友達の演奏を聴き、演奏の良さを感じとりながら、鑑賞できる

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
芸 術	美術 I	1 年普通科 1 年国際科 1 年農業環境科 1 年福祉科	2 単位	高校美術 (日本文教出版)	

到達目標	- 鑑賞を通じて、造形的な見方・考え方を学ぶとともに、確かな描画や造形の基礎力を身に付け、生涯を通じて芸術に親しむ心情を養う。 - 互いの個性を理解し認め合うことで、より幅の広い視野や多様な価値観を身に付ける。
------	--

評価の観点	知識・技能	- 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 - 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。
	思考・判断 ・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

学習の評価	① 制作した作品による評価 ② プリントや感想等の提出内容による評価 ③ 授業時の取組、様子、出席状況による評価 ★①～③を総合的に評価する。
-------	--

単元	学習内容	学習到達目標
オリエンテーション	「美術 I について」	高校美術の学習の意義・自然と人間・生活や歴史と美術の関わりについて理解する。
表現 絵画	「クロッキー」 「デッサン」	- 形の捉え方を理解し、線の強弱を用いて表現ができる。 - 構造的に形を把握し、明暗や質感を描くことができる。
表現 絵画	「鉛筆画」	- 構図を考えて、モチーフを配置することができる。 - 明暗で立体感と奥行きを表現できる。 - モチーフの質感を描くことができる。
表現 絵画	「自画像」	- 自己の内面も表現できるよう、構図やアングル、表情、色彩などを組み合わせ構想することができる。 - 色のもつ特性や効果を理解し、色塗りすることができる。

鑑賞	「西洋美術史」	・ギリシャ文明・ローマ美術・ロマネスク美術・ゴシック美術の代表的な建築物や美術作品について、作者や特徴など説明できる。 ・ルネサンスの三大巨匠の作品について説明できる。
表現 デザイン	「ロゴデザイン」	・ロゴデザインのもつ役割について理解できる。 ・ロゴに必要な要素について理解できる。 ・色のもつイメージを理解し、配色に生かすことができる。
表現 彫刻	「異素材の組み合わせによる立体」	・質感や量感、動勢を意識した造形ができる。 ・それぞれの素材の持つ特性を生かして構成し、表現することができる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
芸 術	書道 I	1 年普通科 1 年国際科 1 年農業環境科 1 年福祉科	2 単位	書 I (光村図書)	

到達目標	・書の表現方法や多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基本的な技能を身に付けるようにする。 ・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構成し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 ・主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
------	--

評価の観点	知識・技能	・書の専門的な知識について理解している。 ・用筆、運筆、字形のとり方などの特徴を捉えて書く力を身に付けている。
	思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。
	主体的に学習に取り組む態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。

学習の評価	・学習活動への参加状況（制作活動への取り組み状況） ・学習記録 ・制作作品（完成度）
-------	--

単 元	学 習 内 容	学 習 到 達 目 標
オリエンテーション	書道の学習分野 書写から書道へ	・書道の学習分野や国語科書写と芸術科書道の違いを理解する。 ・漢字の成り立ちと書体の変遷について理解する。 ・書道の学習に必要な用具・用材について理解し、正しく丁寧に扱う。
漢字の書	楷書古典の鑑賞・臨書 九成宮醴泉銘 孔子廟堂碑 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 造像記 鄭義下碑 篆刻 印稿作成、運刃 押印・鑑賞	・古典を臨書する意義について理解する。 ・楷書古典について理解し、風趣を味わったり価値について考えたりすることができる。 ・用筆・運筆・結構法などについて分析しながら臨書する。 ・篆刻の用具・用材について理解し、篆刻の基礎的な技法を身に付ける。

	漢字作品の創作 行書古典の鑑賞・臨書 蘭亭序 風信帖	・創作の手順を理解し、学んだ古典の特徴や技法を生かして創作する。 ・お互いの創作作品を鑑賞し、感想を述べ合う。 ・行書古典について理解し、風趣を味わったり価値について考えたりすることができる。 ・用筆・運筆・結構法などについて分析しながら臨書する。
仮名の書	仮名の基礎 基本点画 いろは歌 連綿 散らし書き 古筆の鑑賞・臨書 蓬萊切 高野切	・仮名の成立や仮名の種類などについて理解する。 ・仮名の用具・用材と特徴について理解する。 ・仮名の線質について理解し、単体や連綿の基礎的な技法を身に付ける。 ・「行書き」と、「散らし書き」の紙面構成法について理解する。 ・平安古筆の風趣を味わったり価値について考えたりすることができる。 ・用筆・運筆・結構法などについて分析しながら臨書する。
漢字仮名交じりの書	漢字仮名交じりの書の鑑賞・創作 生活の中の書	・身近にある漢字仮名交じりの書を知る。 ・漢字と仮名の調和を図りながら紙面構成を考え、創作する。 ・表現の意図に合うように、用具用材、字形、用筆等に工夫する。 ・お互いの創作作品を鑑賞し、感想を述べ合う。 ・生活の中の書について考え、その効用について理解する。（硬筆・手紙の書等）

令和7年度 英語コミュニケーションⅠ 公開用シラバス

教科	科目	対象学年学科	単位数	教科書	副教材
外国語 (英語)	英語コミュニケーションⅠ	1年 農業環境科 福祉科	3単位	LANDMARK Fit English CommunicationⅠ (啓林館)	教科書準拠 ワークブック サブノート

到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。 1. 事物に関する紹介や対話などを聞いて、概要や要点をとらえる。 2. 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえる。 3. 聞いたり読んだり、学んだことから情報や考えなどについて話し合い、意見交換をする。 4. 聞いたり読んだり、学んだことから情報や考えなどについて簡潔に書く。
------	---

	思考・判断・表現	知識・技術	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要、要点を捉えている。	英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について話された文等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。	・ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている。

学習の評価	1. 授業中の活動への取り組み状況。 2. 課題の提出状況。 3. パフォーマンステスト（スピーチ、プレゼンテーションなど） 4. 定期考査（中間考査、期末考査）
-------	--

単元	学習内容	到達目標
Preparatory Lesson	自己紹介をペアやグループで行う	クラスメイトの自己紹介を聞いて話し手の情報を聞き取り、話し手の意図を把握する。 クラスメイトとの自己紹介を通して、自分の情報や考えを伝え合うやり取りを続ける。 自己紹介を通して、自分の情報や考えを話して伝える。
Lesson 1 Enjoy Your Journey!	新生活での新たな目標の見つけ方	これからの高校生活で関心があることについての話を聞いて必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する。 高校生活における目標設定について書かれている文章を読み、不定詞や動名詞の意味や構造を理解する。また文章から必要な情報を読み取り、要点を捉える。高校生活で関心がある学校行事について、自分の考えを伝え合うやり取りを続ける。 自分がこれから挑戦したいことについて、自分の考えを話して伝える。チャレンジリストを作成し自分がこれから挑戦したいことについて、自分の考えを書いて伝える
Lesson 2 Curry Travels around the World	はるかなるカレーの旅	好きなカレーについての会話から必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する。カレーの歴史と現在の様子についての文章を読んで、必要な情報を読み取り、概要を捉える。また、文章を通して受動態や現在完了形の意味や構造について、理解する。 食べたことがあるカレー料理について、自分の経験や好み等の情報を伝え合うやり取りを続ける。自分の好きなカレーについて、食材や味などの情報を話して伝える。自分の好きなカレーについて、食材や味などの情報を文章に書いて伝える。
Lesson 3 School Uniforms	世界の制服事情	学校の制服についての会話を聞いて必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する。学校の制服についての文章を読んで必要な情報を読み取り、要点を捉える。また比較の表現や、分詞、関係代名詞の意味や構造を理解する。自分が通っている学校の制服について、自分の考えや気持ちを伝え合う。学校の制服着用について賛成か反対か、自分の考えを相手に話して伝える。学校の制服着用について賛成か反対か、自分の考えを文章に書いて伝える。

Lesson 4 Eco-Tour on Yakushima	屋久島エコツアーを体験	日本の世界遺産についてのスピーチを聞いて必要な情報を聞き取り、スピーチの要点を捉える。屋久島のエコツアーについての文章を読んで、必要な情報を読み取り、要点を捉える。また、関係代名詞や関係副詞の意味や構造を理解する。自分が訪れてみたい世界遺産について、自分の考えや気持ちを話して伝え合う。自分が訪れたことがある、または訪れてみたい日本の世界遺産について、その場所についての情報や自分の考えを話して伝える。自分が訪れたことがある、または訪れてみたい日本の世界遺産について、その場所についての情報や自分の考えを文章に書いて伝える。
Lesson 5 Bailey the Facility Dig	病院で働くファシリティドッグ、ベイリーについて	ファシリティドッグ導入に賛成か反対かについての会話を聞いて必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する。ファシリティドッグについての文章を読んで必要な情報を読み取り、要点を捉える。また、不定詞の意味上の主語や間接疑問文、依頼の表現、原形不定詞を使用する表現について、理解する。飼っているペットや好きな動物について、自分の考えや気持ちを話して伝え合う。ファシリティドッグの導入について賛成か反対か、自分の考えを話して伝える。ファシリティドッグを導入することについて賛成か反対か、自分の考えを文章に書いて伝える。
Lesson 6 Communication without Words	世界の国々の言葉を用いないコミュニケーション	ジェスチャーが持つ意味について話されている会話を聞いて、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する。世界の非言語コミュニケーションについて書かれている文章から必要な情報を読み取り、要点を捉える。また be 動詞の補語になる that 節を含む表現や、対比を表す表現、形式目的語、間接疑問文の意味や構造を理解する。自分が話す時によく使用しているジェスチャーとその利点について、自分の考えを伝え合うやり取りを続ける。自分が関心を持っている非言語コミュニケーションについて、その意味や自分の考えを話して伝える。自分が関心を持っている非言語コミュニケーションについて、その意味や自分の考えを文章に書いて伝える。
Supplementary Lesson	パラグラフを書いてみよう！	クラスメイトの好きなものについての発表を聞いて、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する。クラスメイトの好きなものについて書かれた文章を読んで必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握する。自分の好きなものについて、自分の考えを伝え合うやり取りを続ける。作成したパラグラフを参考にしながら自分の好きなものについて、自分の考えを話して伝える。つなぎ言葉を用いて論理性を意識しながら、自分の好きなものについての情報や考えを書いて伝える。
Lesson 7 Dear World: Bana's War	バナが世界に向けて発信したメッセージとは	インターネットの活用方法について話している会話を聞いて、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を聞き取る。バナの平和への思いとソーシャルメディアを利用した平和活動についての文章から必要な情報を読み取り、要点を捉える。また、関係代名詞や関係副詞の非限定用法、分詞構文の意味や構造を理解する。インターネットの良い点、悪い点についての自分の考えを、理由を示しながら伝え合う。インターネットの良い点、悪い点について自分の考えを、書いた文章をもとにしながら話して伝える。インターネットの良い点、悪い点について自分の考えを、理由を示しながら文章に書いて伝える。
Lesson 8 The Best Education to Everyone, everywhere	社会起業家の思いと挑戦	将来就きたい職業についての会話を聞いて、必要な情報を聞き取り、会話の要点を捉える。社会起業家について書かれた文章を読み、必要な情報を読み取り、概要を捉える。また、less を用いた比較の表現、知覚動詞を用いた表現や過去完了形、仮定法過去の意味や構造を理解する。将来自分が就く職業を選ぶ際に重要なことについて、自分の考えを伝え合うやり取りを行う。将来自分が就きたい職業について、理由を示しながら自分の考えを話して伝える。将来自分が就きたい職業について、理由を示しながら自分の考えを文章に書いて伝える。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
家庭	家庭 総合	1・2年 農 業 環 境 科	4 単 位	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)	資料集 最新生活ハンドブック 資料&成分表 (第一学習社)

到達目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。
------	---

評価の観点	A 知識・技術 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	B 思考・判断・表現 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	C 主体的に学習に取り組む態度 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。
-------	---	--	--

学習の評価	【知識・技能】 ・定期考査、および 授業で扱った小テスト ・実習での作品の完成度 ・各学習分野における達成度 【思考・判断・表現】 ・定期テスト ・授業のワークシートや課題レポート、作品など提出物の提出状況（内容の充実度合） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・授業態度、実験・実習等への積極的な参加と貢献度、授業ワークシートの取り組み ・ホームプロジェクトの提出とその達成度。
-------	---

単元	学習内容	到達目標
1 章 自分らしい人生をつくる	1.生涯発達の視点 2.青年期の課題、目標を持って生きる 3.人生をつくる 4.家族・家庭を見つめる 5.これからの家庭生活と社会	・家族を単位としたライフステージがあり生活課題があることを理解し、自分の人生について考える。 ・多様化しつつある現代の家族の特徴、家族の機能の変化、民法について理解する。 ・家事分担を通して、多様化する家族像・自立・労働・などについて理解する。
2 章 子どもと共に育つ	1.命を育む 2.子どもの育つ力を知る 3.親として共に育つ 4.子どもとの触れ合いから学ぶ （乳児ふれあい体験、保育見学） 5.これからの保育環境	・乳幼児の発達の特徴を、家庭や環境との関わりをとおして理解し、子どもの成長に関わる立場である親や家族の役割と責任を考える。 ・赤ちゃんふれあい体験、保育実習を通して、乳幼児への理解を深める。 ・少子社会における子育て支援・児童福祉の意義について理解する。 ・子どもの発達と環境との関わりについて認識し、これからの保育のあり方について考える。
3 章 高齢社会を生きる	1.高齢期を理解する 2.高齢者の心身の特徴 3.これからの高齢社会	・加齢による高齢者の心身の特徴について知り、高齢者の自立を支える家族の役割と責任を考える。 ・シニア体験などへの取り組みをとおして高齢者の身体状況への理解を深め、相手の立場や気持ちを思いやることは自分を大切にすることでもあることを理解する。
4 章 共に生き、共に支える	1.私たちの生活と福祉 2.社会保障の考え方 3.共に生きる	・ともに生きるノーマライゼーションの考え方を基礎に、高齢者や障がい者への理解を深め、社会の一員としてどのようにかわっていかねばよいか考える。
5 章 経済生活を営む	1.職業生活を設計する 2.国民経済・国際経済と家庭の経済生活 3.現代の消費社会、契約トラブル	・経済社会の変化が家庭経済にさまざまな影響を及ぼしていることを理解する。 ・契約や消費者信用、多重債務問題等について理解し、消費者としての適切な判断ができるようにする。 ・消費者基本法等の消費者保護の仕組みについて理解する。

	4.これからの消費生活と環境	・多様化する現代の消費生活の課題について認識し、ひとりの消費者として、主体的に考え行動することの必要性について理解できる。 ・消費生活と環境の関わりについて関心を抱き、環境負荷の少ない生活の在り方について認識できる。
6 章 食生活をつくる	1.食生活の課題について考える 2.食事と栄養・食品 3.食生活の安全と衛生 4.生涯の健康を見通した食事計画 5.調理の基礎 調理実習 ・食物調理技術検定の受験 6.食生活の文化と知恵 7.これからの食生活	・自分の食生活の現状を把握し、食と健康のかかわりについて考える。 ・食品の栄養的特徴と調理上の性質について、基礎的なことを理解している。 ・食の安全について理解する。 ・健康で安全な食生活を営むための食物に関する基礎的知識や技術を身につけ、実践することができる。 ・班員で協力して、安全かつ衛生的に調理実習を行うことができる。 ・家庭経営の立場から、家族の日常の食生活に必要な食物に関する基礎的知識や技術を習得させ、食生活を計画的・合理的に営み、その充実向上を図る能力を伸長する。 ・食物調理技術検定4級受験
7 章 衣生活をつくる	1.被服の役割を考える 2.被服と表示、材料、性能 3.被服を管理する 4.被服を作る 被服製作 5.衣生活の文化と知恵 6.これからの衣生活	・衣服の起源、衣文化、衣服のはたらき、被服材料の特徴について理解する。 ・家庭経営の立場から、家族の日常の衣生活に必要な被服に関する基礎的知識や技術を習得し、衣生活を計画的・合理的に営み、その充実向上を図る能力を伸長する。 ・実習を通して基礎縫いの技術を身につける。 ・被服製作を通して、自分の技術に合わせて、自分らしさを表現することができる。
8 章 住生活をつくる	1.住生活について考える 2.住生活の計画と選択 3.住生活の文化と知恵 4.これからの住生活	・自分の日常生活を振り返り、その生活行為と生活時間のつながりや住まいの機能について理解する。 ・住生活と環境、住居の設計などに関する知識を身につけ、自分や家族の1日の生ライフステージに応じた、快適な住生活について考える。 ・自分に適した住空間について考え、デザインできる。 ・身近な地域の住環境について分析し、「住みよい環境」のためには何が必要か考える。
9 章 生活を設計する		・ライフプランガイドを用い、自分の未来を描く。 ・自分の生活を見直し、生活設計ができる。
ホームプロジェクトの実践 学校家庭クラブについて		・ホームプロジェクトを計画に基づき、自主的に解決を目指して実践することができる。 ・学校家庭クラブ活動について知り、日ごろの学科での学びも含め、積極的に実践することができる。 ・近隣の園児へ手作りおもちゃのプレゼント。近隣駅待合室の手作り座布団の製作。

教科	科目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
農業	農業と環境	1年農業環境科	4	農業と環境(実教出版)	

到達目標	農業生物の育成と環境の保全についての体験的、探求的な学習を通して、農業及び環境に関する学習について興味・関心を高める。 科学的思考力と課題解決能力を育成し、農業及び環境に関する基礎的な知識と技術を習得させ、農業と各分野で活用する能力と態度を育てる。
------	--

評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	農業と環境について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身につけている。	農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わるものとして合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ共同的に取り組む態度を身につけている。

学習の評価	・農業生物の育成についての体験的、探求的な学習を通して、農業に関する基礎的な態度と技術を習得する。 ・農業及び農業学習への興味・関心を高めるとともに、科学的思考力と問題解決能力を伸ばし、農業の各分野の発展を図る能力と態度を身につける。
-------	--

	学習内容（１）	学習内容（２）	学習内容（３）
1 学 期	第1章 農業と環境を学ぶ (1)農業・環境学習とは何か (2)農業と環境の学び方 第2章 私たちの暮らしと農業・農村 (1)人間と植物・動物とのかかわり (2)農業と自然・社会とのかかわり (3)日本の農業・農村と食料供給 (4)農業と国土・環境の保全 (5)農業・農村の役割 (6)これからの農業・農村 第3章 栽培(と飼育)の基礎 (1)作物の特性と栽培のしくみ (2)作物を取りまく環境とその管理	第4章 栽培(・飼育と環境)のプロジェクト (1)栽培と飼育のプロジェクトの実際 (2)イネ (3)トウモロコシ	第6章 学習のまとめと学校農業クラブ活動 (2)学校農業クラブ活動 第5章 環境調査と環境保全 (3)環境学習のプロジェクト
2 学 期		(4)ダイコン	第5章 環境調査と環境保全 (1)環境の調査 (2)環境の保全と修復・再生
3 学 期	第4章 栽培(と飼育)のプロジェクト (5)ダイズ (6)カブ	第4章 栽培(・飼育と環境)のプロジェクト (3)トウモロコシ(の加工) (4)ダイコン(の加工)	第6章 学習のまとめと学校農業クラブ活動 (1)プロジェクト学習のまとめと発展

※学習内容は、相互に関連させ、並行的に学習が進行するようにする。

教科	科目	対象学年 学科	単位数	教科書	使用教材
農業	課題研究	2,3年 農業環境科	計4単位		

到達目標	1年次からの研究してきた農業に関する課題に向け、その解決を図る学習を通して専門的な知識と技術の深化・総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身につける。
------	--

評価の 観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	栽培方法などにおける基本的、体系的な知識を身につけ、調査・研究・実験方法を理解している。	- 農業における課題を多面的に考察し、データの取捨選択を適切に判断するとともに、理解した成果を応用しようとする創造的、実践的な能力を身につけている。 - 栽培方法など基本的、体系的な技術を身につけ、調査・研究・実験を適切に実施するとともに、結果をまとめた確に表現・発表する。	農業における課題に興味・関心を持ち、課題の解決に意欲的に取り組むとともに、理解した成果を応用しようとする創造的、実践的な態度を身につける。

学習の 評価	- 結果を正確に整理できたか。 - 結果の整理に創意工夫ができたか。 - 結果の理由を調べ、考察することができたか。 - 改善点をまとめ、今後に生かせることができたか。
-----------	---

単元	学習内容	到達目標
課題設定	研究テーマ決定	- 昨年度の研究テーマを参考に、今年度取り組むべき課題を決める。 - テーマを元に、実施計画を立てる。 - 実施計画を元に、研究方法を考え、実践する。 - 中間の結果をまとめる方法を理解する。 - 研究結果を発表する方法を理解する。
計画	研究計画	
実施	研究の実践	
中間報告	研究の中間まとめ 研究中間報告	
実施	研究の実践	- 研究中間まとめの問題点を洗い出し、その解決方法を探り、引き続き研究を実践する。 - 研究成果をまとめ、レポートと発表原稿・発表画面などを作り上げる。 - 理解しやすい発表となるよう工夫する。 - 聴衆に理解され、下級生が引き続き研究を継続したいと思ってくれたか。
発表準備	研究のまとめ、発表の準備	
研究のまとめ	研究のまとめ、発表の練習	
発表	課題研究発表会	

教科	科目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
農業	総合実習	1, 2, 3 年 農業環境科	計8(3)単位		総合実習テキスト

到達目標	専門分野の学習に関わる実習を通して、基礎的な知識と技術を習得するとともに、2年生からの野菜、草花、土木の各類型の学習内容をよく理解する。 ※1年は全生徒が年間を通じて野菜、草花、土木、北山田（作物、果樹）の4分野をローテーションで行い、2, 3年生は野菜、草花、土木の類型ごとに実習を行う。 ※放課後・休日の総合実習Ⅱは、2, 3年生は類型毎に、1年生は野菜と草花類型の2分野に4回（4週間）ずつ配当し行う。
------	---

評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・技能が身についたか。 ・課題や記録を確実に仕上げられたか。	・実習内容を理解できたか。 ・実習内容を確実にこなしたか。	・実習に積極的に参加したか。 ・取り組みは意欲的であったか。

学習の評価	(1)出席状況、実習態度 (2)記録簿、課題 (3)実技試験の結果 (4)農業鑑定等の結果 ※上記の(1)～(4)について総合的に判断して評価する。
-------	---

単元	学習内容	到達目標
野菜部門 ・ハウス ・露地 ・植物工場	播種、植え付け、収穫・販売 播種、植え付け、収穫・販売 播種、収穫・販売	・野菜苗の育苗と管理について販売を兼ねて学習する。 ・土耕トマト、土、ネットメロンなどの栽培技術を習得する。 ・葉菜類(キャベツ・白菜・ブロッコリー)・根菜類(大根・カブ)などの栽培技術を習得する。 ・野菜の育苗技術を身につける。
草花部門 ・花壇苗 ・切り花 ・鉢物	播種、鉢上げ、出荷・販売 さし穂、鉢上げ、定植、出荷 播種、鉢上げ、鉢替え、出荷	・用土の重要性や特徴について理解し、用土作りが行える。 ・鉢上げ、鉢替えの方法を理解し鉢上げ、鉢替えが行える。 ・鉢物の栽培管理・栽培管理の特色・鉢物栽培特有の栽培管理を理解し、栽培管理が行える。 ・草花の繁殖・繁殖方法について理解する。 ・発芽に必要な条件を理解し、播種・栽培管理を通して知識と技術を身につける。 ・栄養繁殖の方法について理解し、知識と技術を身につける。
土木部門 ・測量 ・造園管理	平板、水準、縦横断、製図 剪定、刈り込み、除草、雪囲い	・測量に関する基礎・基本的な技術を身につける。 ・樹木の栽培管理を正しく行うことができる。 ・植物の品種による管理方法の違いを理解し、実践することができる。 ・品種の特徴に合わせた剪定や剪定後のケアができる。

教科	科目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
農業	農業と情報	2年農業環境科	2単位	農業と情報 (実教出版)	

到達目標	社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させ、情報処理に関する知識と技術を習得させるとともに、農業の各分野で情報および情報手段を活用する能力を身につける。
------	---

評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	学校での学習や実習、産業現場での実習を通して、農業に関する情報等をその目的や条件に合わせて活用できる知識と技術を体系的・系統的に理解している。	農業情報の活用について、環境への配慮や法令遵守などの職業人に求められる倫理観をもって思考を深め、科学的な根拠などに基づいて創造的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	農業情報を活用した事例とともに、環境保全や農林業の持続的発展に果たす意義や役割に関心をもちながら、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

学習の評価	(1) 出欠の状況 (2) 授業への意欲的に取り組む姿勢と態度 (3) 提出物(実技のファイル) (4) 考査：各学期に期末考査を実施する。 ※上記の(1)～(4)について総合的に判断して評価する。
-------	---

単元	学習内容	到達目標
情報の基礎 文書処理ソフトの基本操作	- メディアとコンピュータ - 文書の作成 - 図表の作成	- 現在の情報化社会においてコンピュータ利用の必要性について理解させる。 - 特徴と機能を理解し、文書の作成ができる。 - 文書の編集・印刷・保存の方法を身につける。
表計算ソフトの基本操作	- データ入力、計算 - グラフの作成、編集 - コンピュータの仕組み - 情報通信ネットワークの仕組み	- データの入力方法が理解できる。 - データの入力および数式と関する入力方法が理解できる。 - ネットワークに関してその功罪を理解する
プレゼンテーションソフトの基本操作	- スライドの作成 - オブジェクトの挿入 - 研究成果の発表	- 文字の入力と編集方法を理解する。 - 画像の挿入方法を理解する。 - スライドショーの方法を習得する。 - 個人でテーマを決め、研究成果を発表する。
プログラムの設計	- プログラム設計とアルゴリズム - フローチャート - プログラミングとコーディング	- プログラム設計の流れを理解する。 - アルゴリズムとフローチャートの作成を理解する。 - プログラミングの流れとコーディングを理解する。